

女は怖い!

主婦4人が反物専門に詐欺

良家の奥様風を装い

寸借・月賦500点、一千万円相当

いわき市内の呉服店や衣装店から、単独あるいはグループで訪問販売や江戸襦(つま)など高級反物ばかりをだましとっていた、主婦4人の女性詐欺グループが八日朝、いわき市警署に逮捕された。被害は同市平や内郷、四倉など千数件に及んでおり、最終的には五百点、一千万円以上になるものと同署ではみている。



成田 ヨシ



洲崎 佐津江



丹野 ふく



大宮 ヨシ子

捕まったのは同市四倉町字西一丁目(一)の二、旅館経営成田ヨシ子(52)、同町上七井田字東山三丁目、詐欺犯歴一回、主婦洲崎佐津江(48)、同市平兼田字喜勝作九同丹野ふく(56)、同市岸一四同大宮ヨシ子(50)の四人。

調べによると成田は昨年十月下旬、同市四倉町字東四丁目の呉服店を訪れ、代金は月賦で払うとウソをつき、訪問販売地を四倉(時価二十万円相当)をだまし取った。

また洲崎は同年五月、同市平字五丁目のB貸衣装店、「結婚式に使うので貸して欲しい」とウソをついて、江戸襦(つま)組(時価二十万円相当)をだまし取った。

成田ら四人は派手好きで、だまし取った品物を着に入れ、生活費や遊興費に充てていたが、市内の質屋に貸衣装などが盗みか、内偵をすすめた結果、成田の犯行とわ

市と常磐病院訴える

夫の死因は「職務怠慢」

妻子3人 賠償額二千四百万円

夫が死亡したのは病院の手術後の管理ミスとして、いわき市常磐上湯長谷町梅ヶ丘六五、主婦浦美代子(50)と共、人は八日、いわき市と同市常磐病院院長、主治医の二者を相手取り、二千四百余万円の損害賠償請求訴訟を提起し、同早朝九時四十五分すぎ、福島地裁いわき支部に訴状を提出した。同支部は昨年十二月、浦美代子からの証拠保全の申し立てを認め、同病院の関係書類を差し押さえている。

訴状によると美代子さんの夫、敏貞(50)は(当時四十七歳)は昨年三月六日慢性肝炎と腎臓病で同病院に入院。同年五月二十六日同病院で腎臓病二個を取り除く手術を受けた。その後、容体悪化したため二十七日午後、同市内の福島労災病院で再手術を受けたが、意識不明のまま翌二十七日午前八時半ごろ、死亡した。

庄一郎さんは常磐病院で手術を受けたあと、二十七日午前十一時

十五分ごろから激痛を訴えたため、美代子さんが数回にわたって看護婦を通じて、担当の佐藤平城医師を呼んでもうとうと頼んだが、佐藤医師は「飲酒し眠い」などの理由で診察に応じなかった。約五時間経過後にはじめて出診した。庄一郎さんの容体は出血多量で血圧も下がっており、手術の状態だったという。

同病院では庄一郎さんの死因を手術後のショックによる不全と

しているが、美代子さんは「五時半も放置していたのは担当外科医の職務怠慢」として訴えを起したもので、同時に、医師を監督管理する立場にあった同病院の竹内正也院長(57)の責任も重大としていた。

損害賠償額は慰謝料一千万円、ホフマン方式による庄一郎さんの逸失料一千九百九十九万七千七百九十九円、葬儀料四十万円などを含む総額二千四百四十八万七千七百九十九円、求償した受給者を対象に週日



裁判の日程は未定だが、医師が診察に怠りなかったことが死因に結びついたらどうか、医師のモラルの範囲が争点になりそう。

「地裁いわき支部に提訴のため訪れた美代子さんと家族」

失業者にも銀行振り込み

雇用保険の給付金

平職安が 2月から

平職安が 2月から雇用保険の給付金を振り込みする。これは、離職者に職業をあっせんする、職業安業務に全力を注ぐが目的。

払い渡し銀行は東邦銀行の各支店(地区別に指定)で、同銀行に普通預金口座がある受給者は払い渡し金融機関(平職安)に普通預金通帳の記号を番号記入し、押印して職安に提出する。また口座

お菓子の専門店
みよ
TEL. 23-7111(代)

火災を断つ電の看板

平消防署前にお目見え

和服を着く一見、奥様風だったため、各店とすすまされた。同署はほかにも共犯者が二三人いるものとみて、成田ら四人を逮及しており、今後調べが進むにつれて余罪や被害もかなり増える見込み。

平消防署前にお目見えした電の看板

ほていや

紳士礼服ハウイ
婦人礼服インギン 代理店
肌着のキャロン
織維品卸問屋

電話 ニニ一七二二番

新春呉服展示会
一月十七日(土)
十八日(日)
十九日(月)
於 報徳会館

趣味のきもの あぐみ会

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

小野小町
はるのいろは
うりに
けりな
いたるよ
わかみ
よたそ
たのめせーまた

十二単

